

環境フェスタにおける京田辺気候市民会議ブース（来場者アンケート） の実施結果について

1 事業概要

第2次京田辺市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定にあたり、市民に呼びかけ開いた、気候変動市民会議において提言された24の取組について、今年度開催した環境フェスタで来場者に「共感するもの」「自分も取り組めるもの」にシールをお貼りくださいとアンケート（別紙参照）を取りました。

2 会場（写真）



3 アンケート集計結果（別紙参照）

「共感するもの」「自分も取り組めるもの」集計（シール貼付）数のうち上位7につきましては、下記のとおりとなりました。

順位	取り組む目標	集計 数
1	公共交通機関の利用率を50%拡大しよう。	35
2	地域で、地域産野菜が循環する仕組みをつくろう。	32
3	自転車を中心の暮らしにシフトしよう。	27
4	既存住宅の断熱化を進めよう。	22
5	住宅への太陽光発電の設置を倍増しよう。	21
5	農地を活用した、再生可能エネルギー導入を考えよう。	21
7	住宅の省エネ化を進めよう。	20



① 再生可能エネルギー

カーボンニュートラル実現に向けてみんなで取り組む 8つのこと



	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
取り組む目標	住宅への太陽光発電の設置を倍増しよう。	どういう組み合わせが、京田辺市にあっていいのか、みんなで考える場をつくろう。	誰もが再生可能エネルギーの導入に関われるよう、お金の流れをつくろう。	市民の誰もが目につくモデルをつくろう。	市民が取り組むモデルをつくって、ひろげよう。	市内に公共施設の太陽光発電のモデル事例をつくろう。	市内の様々なスタイルの太陽光発電導入を促進しよう。	農地を活用した、再生可能エネルギー導入を考えよう。
そのために取り組むこと(取組のアイデア)	<ul style="list-style-type: none">設置の判断ができるように、メリット・デメリットなどの正しい知識を伝えよう。設備導入のハードルを下げる仕組み(共同購入や共同施工など)を実装しよう。導入の後押しとして、補助金制度や信頼できる設置事業者の情報を伝えよう。	<ul style="list-style-type: none">★ 毎月、自由に話せる場(オンライン&時に現場見学)をつくって、事業者(不動産・農家など)・有識者も巻き込んでいこう。★ 若者も巻き込もう。	<ul style="list-style-type: none">ふらっと立ち寄れるような、定期的な勉強会を開催しよう。自分がどんなスタイルに関われるか考えよう。市や地域の信用金庫などと連携して、顔の見える関係で取り組もう。市民ファンドを創設しよう。	<ul style="list-style-type: none">★ 駅前や学校などでモデルをつくろう。	<ul style="list-style-type: none">★ 積極的に市内モデルの情報発信をしていこう。★ 市主体、もしくは、有識者と市民からなる情報発信の団体などを設立しよう。★ 市民が取り組んでいる実践例を集めよう。	<ul style="list-style-type: none">★ 公共施設モデル施設を作り、購入検討の方を対象に太陽光発電の説明会を開催しよう。	<ul style="list-style-type: none">EVの充電スタンド、地域共有のローカル蓄電池とセットで設置しよう。日射遮蔽が 있는 作物(玉露栽培など)の屋根面に、太陽光発電の設置を検討してみよう。耕作放棄地への営農型モデル導入を検討してみよう。太陽光発電を設置するための共通の基準を考えよう。空き家解消・空き地を活用した再エネ導入モデル(空地貸付モデル(仮))を考えよう。	<ul style="list-style-type: none">耕作放棄地の活用として、エネルギー作物の生産を検討してみよう。水田の水の流れ(分配する仕組み)を電気にも応用できるか考えてみよう。
集計	21	11	17	10	10	10	13	21



② 移動



カーボンニュートラル実現に向けてみんなで取り組む 4つのこと



③ 住宅



カーボンニュートラル実現に向けてみんなで取り組む 4つのこと

	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)
取り組む目標	公共交通機関の利用率を50%拡大しよう。	実現したい2030年の未来のための行動をみんなに届けよう。	自転車を中心の暮らしにシフトしよう。	化石燃料車の使用率が少ないまちにしよう。	2030年の未来の(グリーンな)暮らしの普及をしよう。	既存住宅の断熱化を進めよう。	住宅の省エネ化を進めよう。	その他の建物についても取り組みを進めよう。
そのために取り組むこと(取組のアイデア)	<ul style="list-style-type: none"> 降乗車しやすい工夫を考えよう。駅が9つもある環境を活用しよう。 電車とバスを乗り継いで移動する場合のお得な仕組みを考え取組もう。(例:「30分以内に乗り継いだら無料で乗り継げるチケット」など) 車を手放して、公共交通機関への転換するためのインセンティブになるアイデアを考え、取組もう。(例えば、車を手放した方へ公共交通機関は3年間無料とするなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ★市内の大学との連携して、普及啓発を実施しよう。 ★インスタグラム等で幅広い層に情報発信をしよう。(例:移動に関する未来の行動、EVステーションのマップ化等の情報など) CO2削減行動にエコポイントを付与して、行動の転換を促進しよう。その行動にどのくらいCO2削減効果があるかも伝えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 駅の近くに、もっと駐輪場と貸し自転車を整備しよう。 電車やバスに自転車を、そのまま乗せることが出来る方策を考え、取組もう。 安全で走行できる様に自転車道の整備しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> EVのカーシェアリングがあるまちにしよう。また、その仕組みを活用しよう。 貨物用自動車の転換としてドローンなど配達の普及を進めよう。 使用日(この日しか化石燃料車は走れないなど)を限定する取り組みを考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ★地域の工務店などと協力して、ZEH住宅の宿泊体験等を実施しよう。 最新のZEH住宅を購入する以外で、同等の効果のある選択肢(そもそも電気などのエネルギーを使用しない暮らし)も提示しよう。 打ち水、風鈴など伝統的な暑さ対策の知恵を活用しよう。 景観にも良いグリーンカーテン等の取り組みを広げていこう。 住環境の快適さと脱炭素に繋がる建築の取り組みに関する情報を市民一体で広げていこう。 ★若い人たちへ削減取組のメリットをSNS等でみんなに伝えよう。 ★勉強会などの場で、京田辺市内での取り組みを市民から集めて、仲間の意見を共有しよう。また、SNSなどのプラットフォームで、市民と市とで、情報を発信する仕組みを考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 投資回収の早い、窓の断熱改修を進めよう。 中古物件のリフォームを促進しよう。 今後増えてくる空き家の利活用方法を、市民と市で一緒に考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然エネルギーを活用した(太陽光照明、通気性を挙げて風を空調)設備の活用しよう。 家庭用燃料電池、高効率給湯機を普及しよう。 自立循環型住宅を標準化しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> オフィスビルに太陽光を活かした配電設備、自然の風を利用した換気システムを導入しよう。
集計	35	11	27	11	9	22	20	7

	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)
取り組む目標	地域で、地域産野菜が循環する仕組みをつくろう。	環境によい買い物しか出来ない場所・仕組みをつくろう。★	市民へ考えや取り組みを伝えていこう(消費者への教育)。	地域経済循環と食育・教育をつなげる取り組みをつくろう。	環境負荷の少ない循環型農業(肥料、生物多様性)に取り組もう。	農家を支える取り組みをみんなで考えて、取り組もう。	資源循環の取り組みを促進しよう。	地域資源を活用して、脱プラ・循環の仕組みをつくろう。
そのために取り組むこと(取組のアイデア)	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食に京田辺市産の食材を50%使用するなど、地域で高い目標を設定しよう。 給食には、必ず京田辺産の野菜を取り入れよう。 市民に定着しやすいネーミング(例:道の駅など)の、地元産品の販売所をつくろう。 畑のそばで、朝市をしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ★健康づくりも考えたゼロカーボン移動で行こう。 ★EV(ゼロカーボン)配達の仕組みをつくろう。 ★いつもの移動ルートの中に、サテライトショップを増やそう。 	<div> <p><イメージ:総合学習で、農業→調理→堆肥の循環を学ぶ></p> <ul style="list-style-type: none"> ●収穫できたら給食で使用したり文化祭などで販売する。 ●地元の有機農家を指導者、管理人として雇う(雇用にもなる)。 ●農業を通して食生活と環境のつながりを学ぶ(給食に月に一度「ベジタリアンの日」を作る)。 ●大学が最初から最後までデータを集め、環境教育としての成果や課題などをまとめる。 ●京田辺の名産品を学校で育てて、売る体験をする。地元のナス農家やお茶農家から直接学ぶ。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ★モデル校をつくろう。 ●そして、2030年には全ての学校で取り組もう。 	<ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地を市営農園にして、学校給食食材を生産できないか考えよう。 ●(公務員は人気職なので、)農業者を公務員にしよう。複業制度をつくろう。 ●プラスチック紐禁止ルールをつくろう。 ●伐採、剪定枝などを活用した共同バイオ堆肥づくりをしよう。甘南備園での取り組みを広げよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 農家とITベンチャーとのコラボを考えよう。 ●農家を継ぐ仕組みを考えよう(農家を個人ではなく、会社としての取り組みができないか考えよう)。 ●ふるさと納税で有機野菜農家を育成しよう。 ●つくるだけでなく、販売ができる起業チームをつくろう(トレーサビリティサポート、管理)。 	<ul style="list-style-type: none"> 飲食店等の残飯をたい肥に利用する仕組みを考えよう。 ●アプリを通して、売れ残り食品を販売する取り組みを考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 放置竹林の竹などの地域資源を活用した製品をつくり、市民は活用しよう。(竹歯ブラシを制作して、転入者へ配布するなどの取り組みなど)
集計	32	9	7	14	14	14	19	17